

リビング編集部が見つける
街中のユニバーサルデザイン
今回は最終回です

リビング編集部が「街中の身近なユニバーサルデザイン」を見つけていく「こおりやまUD探訪」は、今回が最終回。このコラムのバックナンバーは、郡山市ホームページ「こおりやまUD探訪」で見ることができます。

UDコラムに関する問い合わせは、郡山市民部 市民・NPO活動推進課 ☎024(924)3471。



木のぬくもりあふれ、開放的な院内



わたしの街の

ユニバーサル
デザイン

ユーディー

こおりやまUD探訪



PR

vol.10 医療法人仁寿会 菊池医院



「地域のすべての子どもたちを元気に、という思いのもと、子どもたちの健康を守り、小児医療を続けているクリニックがあります。」

建物内外に天然木をふんだんに使っている「菊池医院」では、クッション性や滑りにくさに配慮し、床にはコルク材を使用。靴下のままで歩けるようにしています。広々とした通路、低いイスや絵文字を用いた案内表示など、子ども目

線の工夫が随所に。待合スペースには、たくさんの絵本と知育玩具を設置し、子どもたちが楽しみながら過ごせる場となっています。「病気の子も元気な子も成長を見守りたい」と、受診歴のない子も参加できる「寺子屋」や、子育て支援のイベントを開催。現在も感染症対策を行いながら続けています。地域に開かれた活動を通し、みんなが元気に暮らせるまちにしたいという強い思いが伝わってきました。



子どもをはじめ、パパ・ママ、地域の皆さん誰もが訪れやすい空間にしたいという院長の思いはスタッフ共通。先日「うち子どもも孫もかかりつけ医は『菊池医院』なのよ」という声をかけてもらい、とてもうれしかったです。病気の時だけに利用するのではなく、地域に根差し、何代にも渡って親しまれる場所にしていきたいです。

左から／松浦美江さん、石井美鈴さん



目で見て分かる案内表示。子どもにも見やすいよう、低めに設置されていました。